

JAMCA

ジャムカ
ニュース

The Japan Automobile Maintenance Colleges Association

No.49

2006年4月1日

発行 全国自動車整備専門学校協会
 協会事務局 〒160-0015 東京都新宿区大京町31
 ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066
 編集事務局 〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3
 ☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988
 ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>



学校の価値は、入学した学生が成長し、卒業時にどれだけの能力を身に付け、それを社会に役立てていけるかというところに

ある。その意味で、我々が何を主眼として行動していくべきかを、考えてみたいと思う。

個々の特性に応じた教育

今日、専門学校に入学てくる学生達の能力、資質は幅が広がっており、また入学する目的も多様化している。このような状況のもとでは、画一的な教育には限界がある。理解の早い学生にはより深い内容を、じっくり学ぶことが適している学生には、基礎的なことを繰り返し学ぶことが必要になる。

また、卒業後の進路も幅が広くなっている。メーカー系の販売会社、一般的の修理工場、ボディーショップ、部品用品の販売、そして、自動車製造関連企業。卒業生たちが、社会で活躍するためには、少なくとも卒業した時点で、自然に仕事に入っていけるだけの実践力を付けていることが望ましい。そのためには、進路に応じた実践学習ができるは半年、少なくとも2ヶ月は必要であろう。もちろん、特化されたコースや学科で学ぶことが理想ではあるが、必ずしも、入学時の意思と卒業時の進路が同一とは限らない。

就職先企業のニーズや卒業生の声に耳を傾けて、育成カリキュラムを個の特性に応じたものに進化させていかねばならない。

「自ら学ぶ力」を身に付ける

これからの自動車業界の変化は大き

これからの技術者養成とは……

ホンダ テクニカル カレッジ 常務理事
 全国自動車整備専門学校協会理事

中山 弘



い。自動ブレーキや自動走行などのITS関連システムのみならず、通常の機能部品も急速に電子化が進む。パワーユニットも、ハイブリッド化は言うに及ばず、CNG燃料車やアルコール燃料車、そして数年後には燃料電池車も市場に出てくる。これらの新技术を整備していくには、新たな技術を自ら学び取る姿勢が必要である。

今の学校での勉強は、小中高とも決まった内容を教わる、覚えるという学習のしかたが大半だ。試験でも、習った範囲から問題が出て、定型的パターンで解答出来ればよい。しかし、実社会では、「習ってないから出来ません」では通用しない。そこで、学校にいる間に、自分で学ぶという学習のしかたを身につけることが大切だ。ワンウェイで覚えるのではなく、自ら学んで身に着けるという勉強のしかたを体得する必要がある。

そのためには学校側も、カリキュラムを見直したり、教材の工夫や教育法の開発をしていく必要がある。教員の皆さんも、従来型の「伝授」ではない、「考えさせる」教育法を研究すること

が必要となる。そういう意味では、JAMCA会員校間での、交流の場をもつと持つべきだろう。現状でも、このJAMCA

ニュースで教材活用等が取り上げられているが、教育ノウハウの共同研究や勉強会などをもっと活発にしていければよいと思う。

自動車技術者の認知度アップ

近い将来、自動車の保有台数は飽和すると予測されている。車の寿命が長期化し、新車販売が伸びない世の中では、自動車整備の位置付けが高まる。自動車を安全に利用するために、またビジネス上でも整備の仕事が極めて大切になる。メーカーもそう認識しているが、まだまだ本腰を入れていない。専門学校と企業とがもっと協力して、自動車技術者の社会的認知を高めていく必要がある。

そのためには、若者たちにもっと自動車とその技術に関心を持ってもらうことが必要だ。JAMCAブックなども、よく読めば奥が深く良い内容の本なのに、これが十分に活用されていないのはもったいない。小中高レベルでの体験学習や出張授業に取り入れなどの、より積極的な取り組みも必要と思う。

■ CONTENTS ■

2面	OPINION
3面	我が校自慢
4・5面	専門学校の自己点検・評価
6面	協会トピックス
7面	活躍卒業生・地区通信
8面	私の教材活用・編集後記